

別19  
1

浄土宗師念佛  
念  
佛  
和  
讃  
元禄十四年板



国立国会図書館 タイトル『心行自然和讃念仏』 請求記号 本別19-1

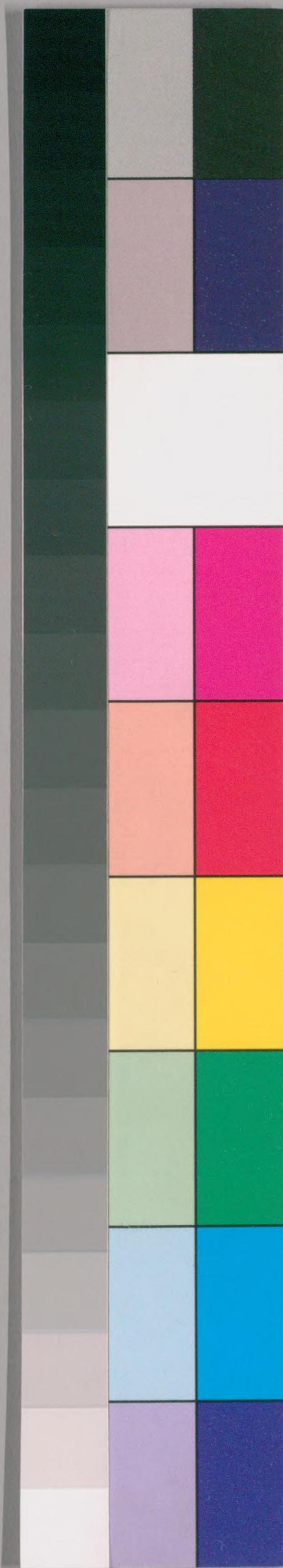
ガラス使用



念佛和讃

完

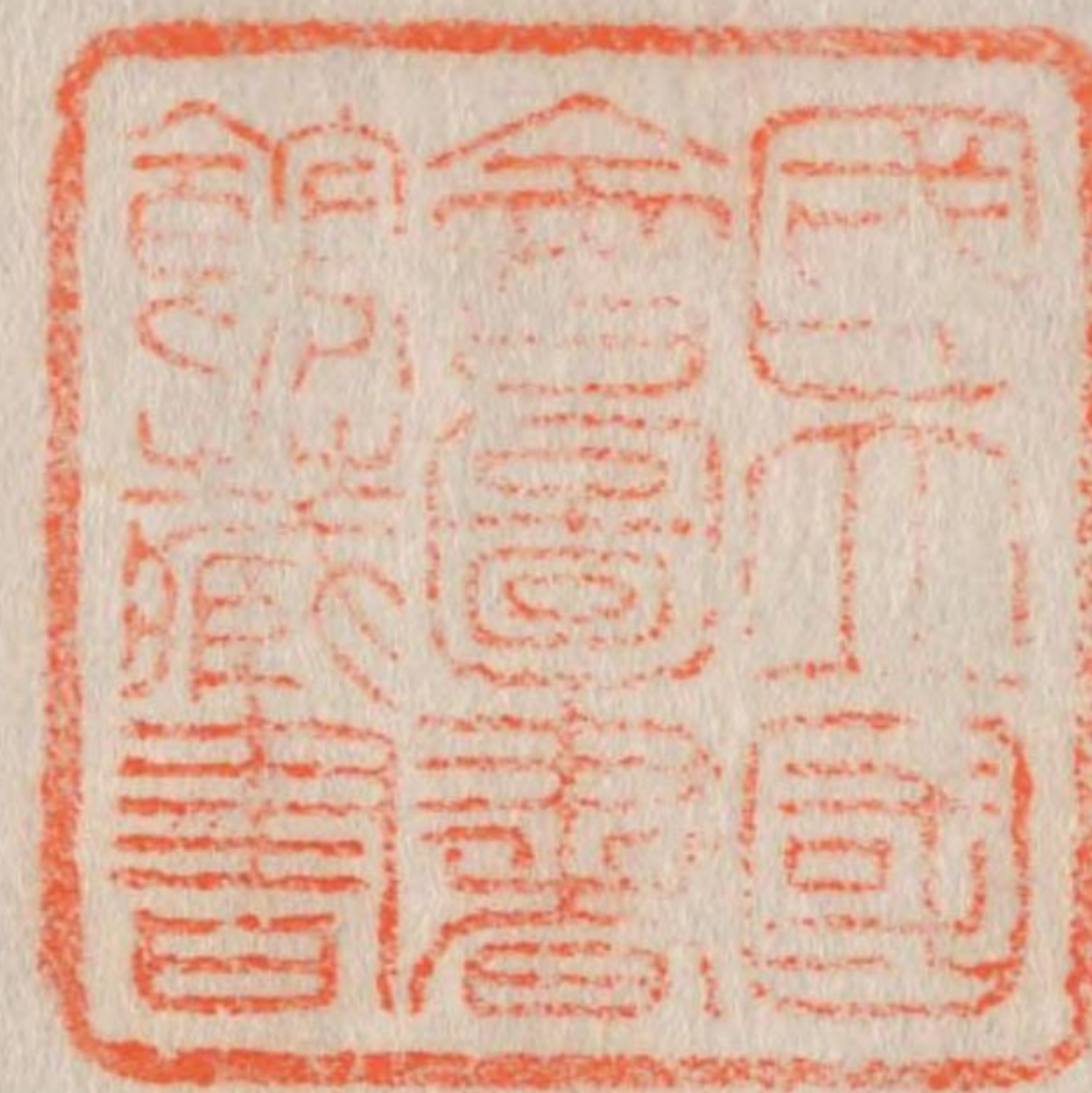
別19  
1



国立国会図書館 タイトル『心行自然和讃念仏』 請求記号 本別19-1

ガラス使用





U 9492

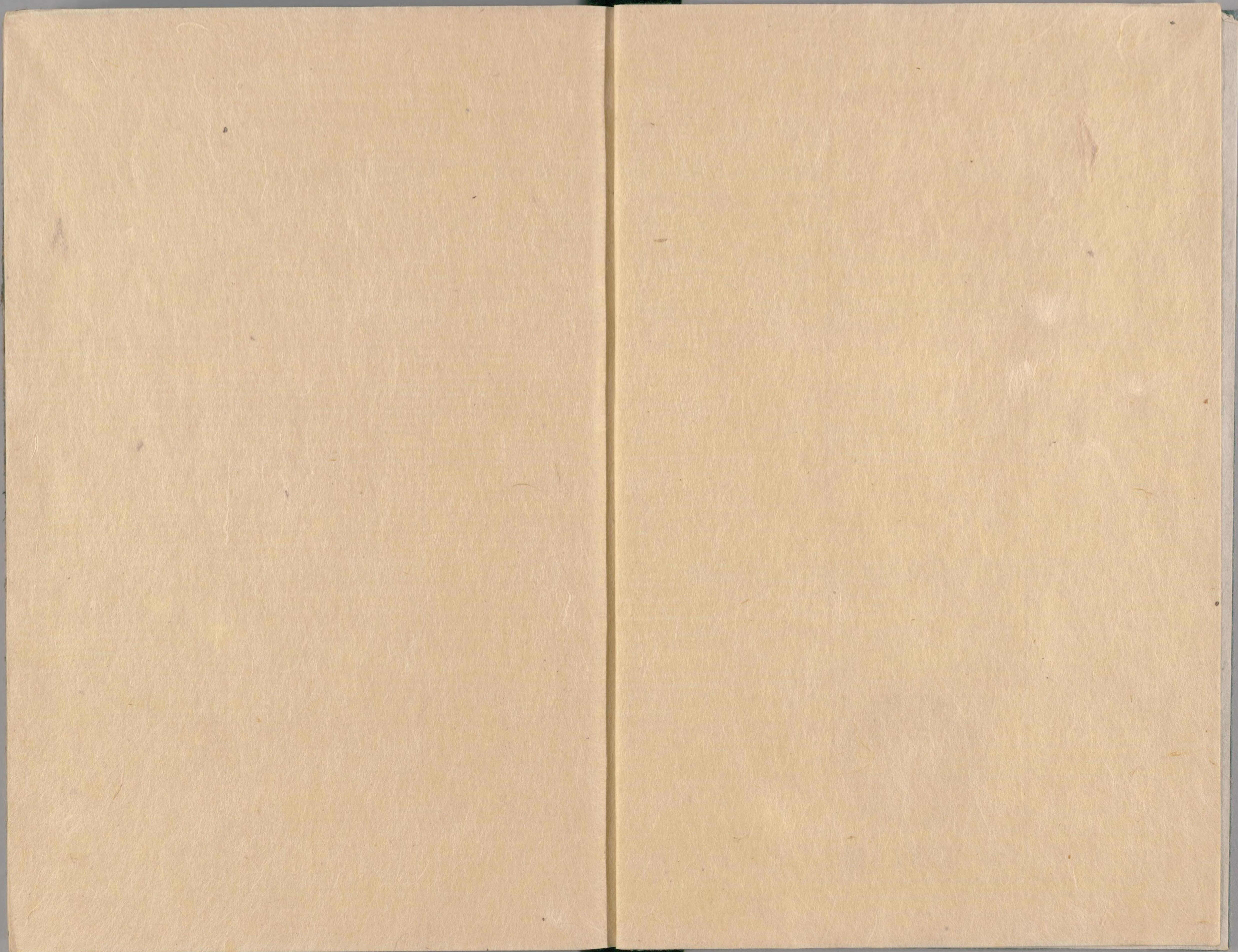


国立国会図書館

タイトル『心行自然和讃念仏』 請求記号 本別19-1

ガラス使用

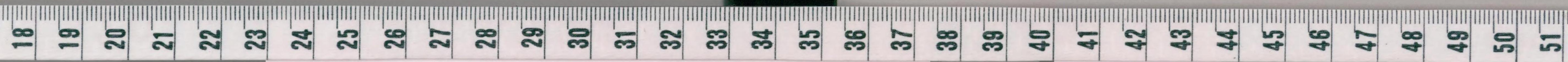
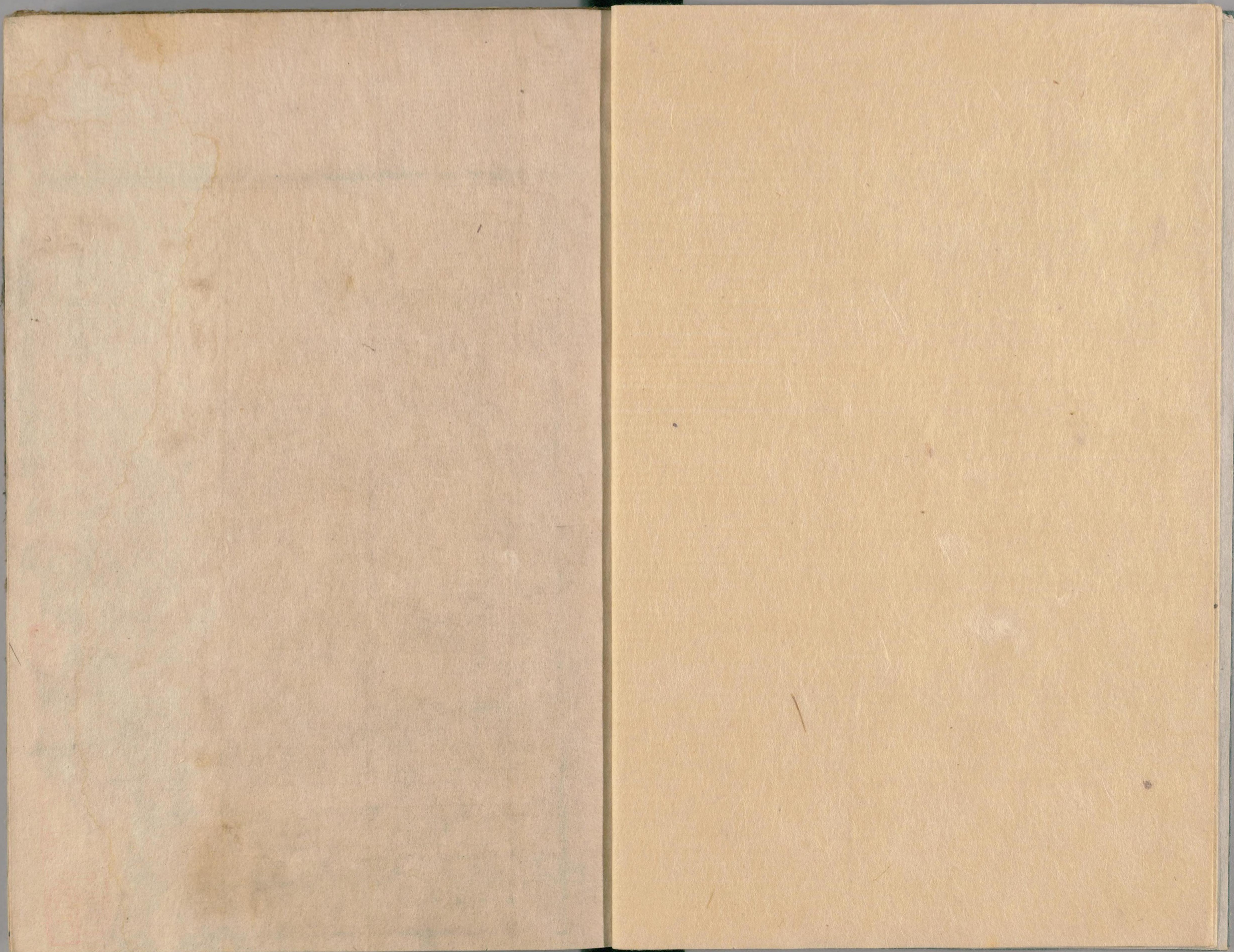




国立国会図書館 タイトル『心行自然和讃念仏』 請求記号 本別19-1

ガラス使用



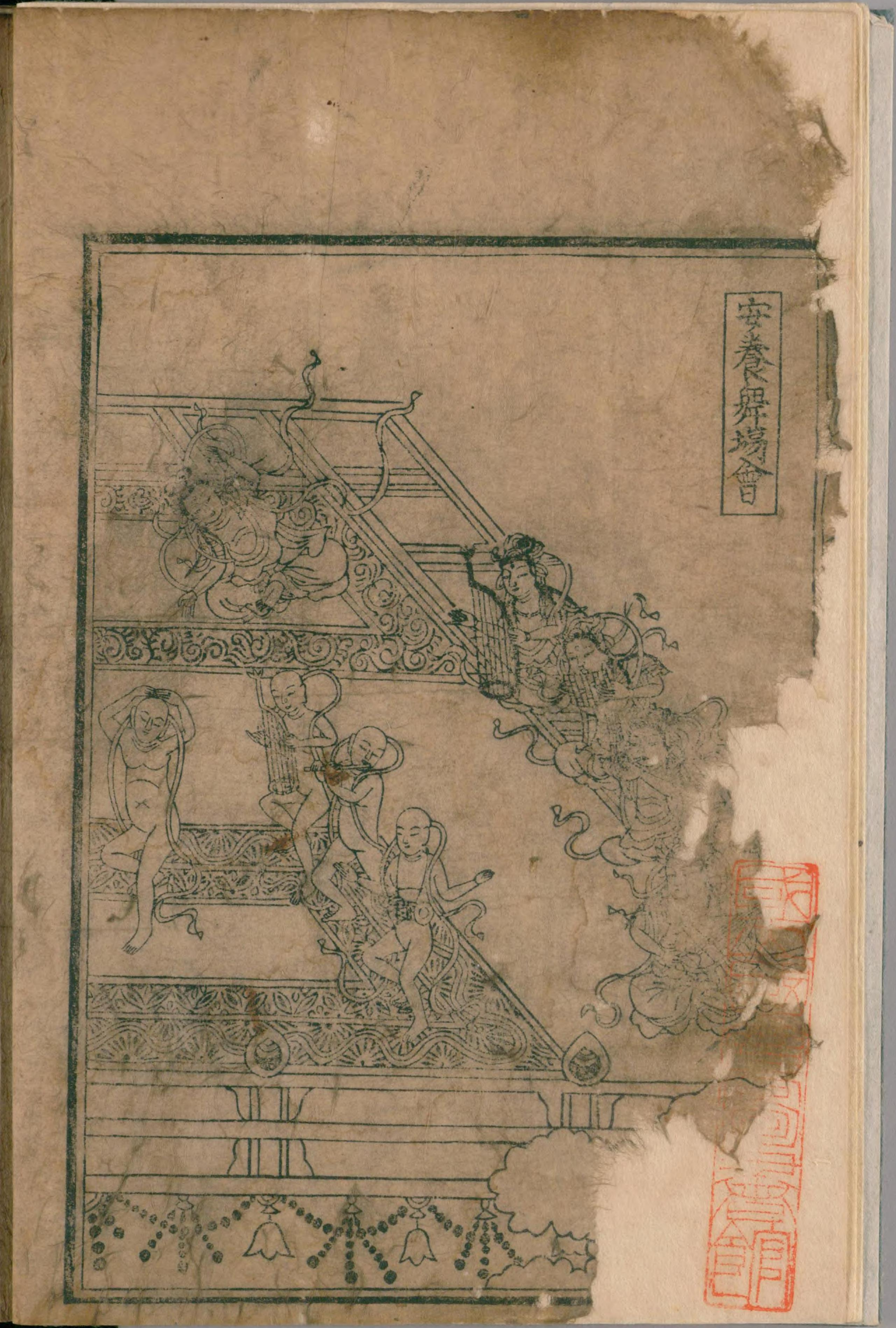
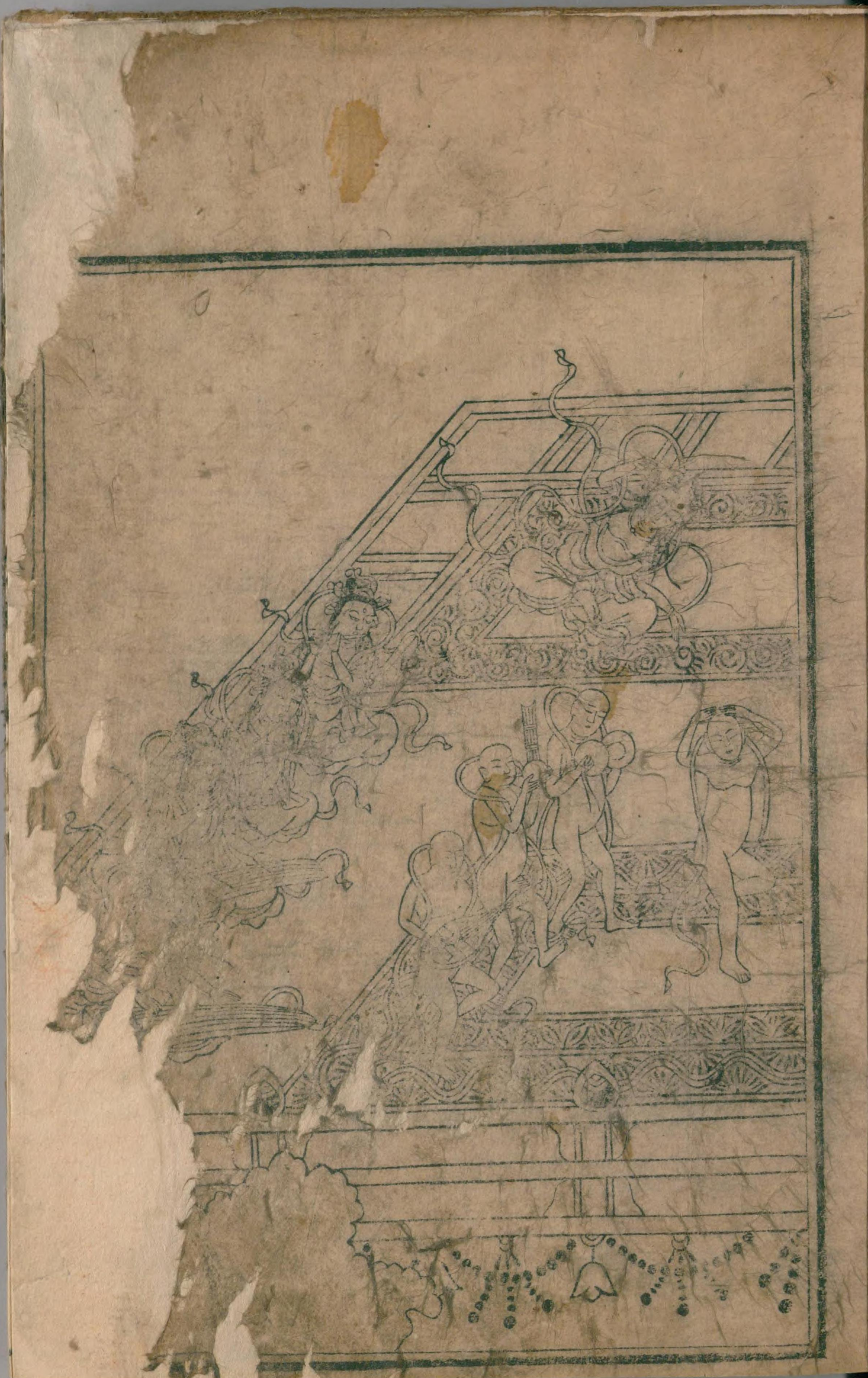


国立国会図書館

タイトル『心行自然和讃念仏』 請求記号 本別19-1

ガラス使用





安養舞場會





































讚揚歌歎踊躍歡喜古今之例

無量壽經曰滅然羨天樂暢發和雅音歌歎最勝尊  
供養無量覺安養曾更見世尊則能信此事謙敬  
聞奉行踊躍大觀喜娑婆

如來出于西天聖教流于五竺矣稱揚佛德興讚詠  
之禮也馬鳴龍樹二大士說偈述讚曾奉行矣從  
不讚稱歌詠傳支那隆如流行也南海音歸傳

安養報國有七寶林和清涼風出五會音聲微妙宮  
商也善導大師法照國師共興五會教讚并念

念行





盛宋遺代也五會法事讚  
蓮宗寶鑑

又彼畏有八功德池摸金水之浪響則引声弥陀經

同念佛緣起也文殊菩薩奉法道和尚所感而則

慈覺大師傳來弘右事談  
真如堂緣起和國也

釋迦和讚。舍利和讚。法華經和讚。弥陀經和

讚。弘願和讚。迎接和讚惠心僧都

當摩曼陀羅和讚武陵称住院声譽助給作

無常和讚。末法和讚。六道和讚

地藏和讚傳云高野山  
智德天台和讚讚智德

音道和讚讚光明大師  
鎮西作圓光大師讚安井門前之  
御製

空阿弥陀佛和讚黑谷繪詞傳  
梁行從此人始也凡和讚於称名

良忠上人自称和讚念佛

上人章形為離塵入寺  
元且和讚念佛礼佛事實具在然阿傳

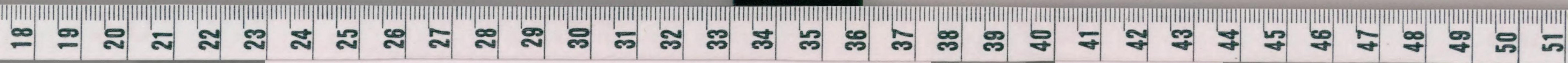
遊行念佛本是起唐土少康禪師而和國空也上人

第一遍上人同景暴行之矣

念佛往生要歌雲居禪師作

諸宗皆有家家和讚伽陀声明鼓樂調子擇其能者

作哀鳴和雅音聲明徹雄朗讚揚三寶之德早感





心行自然和讃念佛目錄

第一 念佛大綱

第二 女人疑滯

第三 女人求法

第四 女人往生

第五 安心決定

第六 臨終正念

第七 光明攝取

第八 念佛生蓮

たぐやんのまなみの  
 たくすけただまわれ  
 みやかた人未法ぬま  
 本意





第九 至心發願

第十 至心勸請

第十一 至心廻向

第十二 歡喜踊躍

已上 附

○祭文 ○一牧起請 ○講會讚 ○滿散

首尾總附

隨喜證讚

和讃縁起

古今讚例

虚字付助

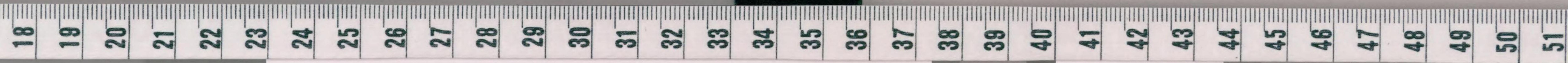
跋并附録

○和讃

がごとよ多佛とそくして音頭同行異日同音  
常めハ和讃ばつりも法とむへー

○踊

音頭はさまよたらおよめつりてひきまわ  
中にまてたどるべー  
おれ方へかきあけつりて  
べーおれ方へかきあけつりて  
あーおれ方へかきあけつりて





ゆゑに右にありとてうかすへし  
はれひしと下へ  
まかりむげべし是皆陽より陰よむか  
船の道理あり他和讃の流もあらしめ  
つめたまりあかあすす一回は念ふす  
けおに何れ様極も付へるす  
まにて只たやうけもよのこりて

○念

音頭和讃とてまかけ  
念をいふす  
ゆゑにひりしあり

○祭文

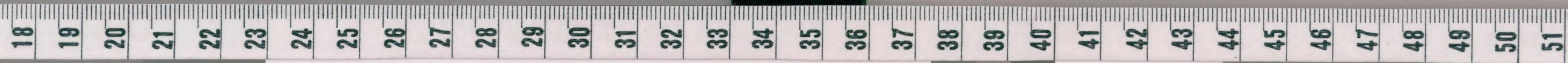
書外多くと誦し  
念をいふす  
ゆゑにひりしあり

○音聲

陰の調子とやわしげ  
念をいふす  
ゆゑにひりしあり

○虚字

天地ひげ神代とまりて  
念をいふす  
ゆゑにひりしあり



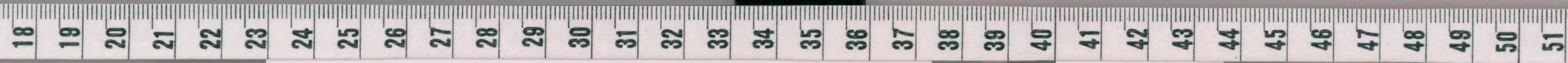






念仏と佛を忘たまひし。けしは、極楽の  
 一切法は、佛の波のまとうるなる調子にて、  
 美座ありては、法道和尚よりうけさらりたま  
 ひしとある。佛の後の常に樂にありせし  
 とある。佛の後の常に樂にありせし  
 天は、ありては、佛の後の常に樂にありせし  
 是切徳在嚴と云新よ、いづて音韻さうにわ  
 わとある。佛の後の常に樂にありせし  
 取と吹あまさんと昔、たまひしと、座をよ

して、われを忘たまひし。けしは、極楽の  
 一切法は、佛の波のまとうるなる調子にて、  
 美座ありては、法道和尚よりうけさらりたま  
 ひしとある。佛の後の常に樂にありせし  
 とある。佛の後の常に樂にありせし  
 天は、ありては、佛の後の常に樂にありせし  
 是切徳在嚴と云新よ、いづて音韻さうにわ  
 わとある。佛の後の常に樂にありせし  
 取と吹あまさんと昔、たまひしと、座をよ





多くたすくま。たそれとす。とくす。とくか。とく  
下ハたまれと。昔りけれける。是又たろみ。あ  
きだ。あ。ろわ。ち。が。と。て。有智の人  
禪して。あ。れ。た。興。あ。と。め。て。た。と  
すと。割。と。興。い。は。れ。て。あ。ま。れ。例。あ。と  
け。和。積。念。佛。と。人。よ。ほ。と。う。し。は。ら。め。し。る。時。あ。  
人。よ。ほ。と。う。し。は。ら。め。し。る。時。あ。  
あ。と。め。て。あ。ま。れ。例。あ。と  
法。あ。し。と。ら。ひ。さ。れ。し。

陽

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀

陰

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀

陽

た。ま。り。げ。さ。ら。や。ら。し。ら。う。

陰

南無阿彌陀佛

南無阿彌陀





釋迦佛乃教の法よきかひて  
 罪物を身と断絶はかする  
 断絶又此のうけと断絶はかす  
 諸天法神を守り断絶  
 仏神のちり断絶はかす  
 横病横死厄難ぞあ

心行自然和讃念佛

至心十念

光明遍照

十方世界

念佛衆生

攝取不捨

△第一

念佛大綱

毎時行法開口  
先可称此文也

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

たすけたまへやあみく佛

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀



○あみごほけのいあーま

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

まろせれまろまろとあまれまて

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

○又こう志ゆい乃をれうへ

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

だいひのこまんをたえたまふ

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

○それまんまろまろれおんため

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

てうせれまろまろとあまれけ

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

○あんなのあまれこうりま

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

いまれわれろがたあろり

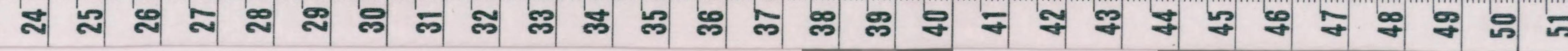
南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

○すてま志西まろまろはま

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀





十二のいせんのかこまづき

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

○はましれあふものあけほのま

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

あみぞほけとありたまふ

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

○ごらくきやごのきやうんを

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

たみくせんりあされつく

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

○うのちうわうのうそまにま

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

すそあいたくくごうたまふ

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

○そのとこしわねごうわうまの

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

みちぞはまわあをうれたり

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛



○さそいわゆるぐにせいのこと

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀

すくすくほもげいあみごぶあつ

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀

○だのむらろとまめやうよ

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀

まうすすげうとまろべうま

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀

○ゆくえとらもこのそん

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀

ぞんとこねんのちか〜あり

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀

たすけたまへやあみ〜佛

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀

十念 にんえんぎたい

△第二 女人疑滞

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀









○あいにくあす<sup>③</sup>きそひと免よ  
 きれほうあまひくあまふこむよ  
 ○あ<sup>③</sup>とあまこころあへてよ  
 けとあ<sup>③</sup>あまこころあまふすよ  
 ○けあまがじんごほう乃よ  
 にくたまもこころあまふよ  
 きんすけたまふあまふ<sup>③</sup>佛よ  
 南無阿弥陀佛<sup>ヨ</sup>  
 南無阿弥陀佛<sup>ヨ</sup>

十念

△第三 女人求法

踊念佛

南無阿弥陀佛<sup>ヨ</sup>  
 南無阿弥陀佛<sup>ヨ</sup>  
 南無阿弥陀佛<sup>ヨ</sup>  
 南無阿弥陀佛<sup>ヨ</sup>

○えいごころあまふ<sup>③</sup>こころ  
 かやらんがひまのやまよ  
 ○あまふ<sup>③</sup>あまふ<sup>③</sup>あまふ<sup>③</sup>  
 けつごんもろふれよ  
 ○それかたうたうのあまふ<sup>③</sup>  
 かやんがひまのやまよ

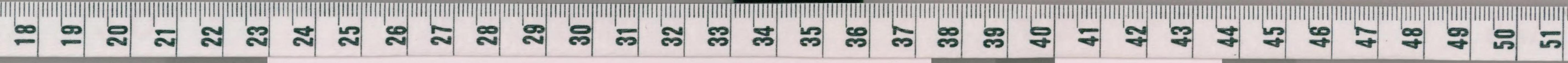
念誦本言





○まゝ十なりあむらひあひ  
 ○いほそをらちていせしれずよ  
 ○ちちごとがまゝとちくちあうれよ  
 ○み川のちあまらちのちくたぶよ  
 ○ちてゆくがまゝかゝあくてよ  
 ○あふれをせしああおれちやよ  
 ○ゆへむきあういひよまひてよ  
 ○ほぐまりきたちつゆれにせむよ  
 ○おちほくかすもいせくてよ

○いほこもみせれかんよ  
 ○ちくへもろれあひあうりよ  
 ○いづいせんとかあしよ  
 ○ちちわかこのちちやちりよ  
 ○だうだうがせんこのちれあひよ  
 ○ちつちあうちよいほとちよ  
 ○あんらうだいにまうれちよ  
 ○ちちよせこのちのちんよあひよ  
 ○いほのちのちをせちちりよ







和讃心佛菩薩金目  
危備





八十八卷

きんぎょけたまきんやあまのぼり

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛

十念

△第四 女人往生

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛

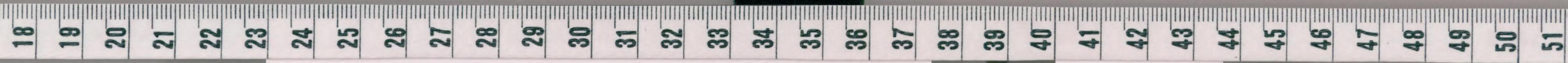
南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛

○ほうざうびくれ<sup>③</sup>あまのぼり  
むぎんのきみ<sup>③</sup>またよほされ  
○わけくちあはれはきん<sup>③</sup>あまのぼり

よみくあまのぼり<sup>③</sup>あまのぼり  
○だいひのむし<sup>③</sup>とこ<sup>③</sup>うし<sup>③</sup>はく<sup>③</sup>よ  
きんぎょ<sup>③</sup>たて<sup>③</sup>し<sup>③</sup>ら<sup>③</sup>ん<sup>③</sup>そ<sup>③</sup>ら<sup>③</sup>よ  
○まげぞちあはれ<sup>③</sup>あまのぼり  
なちれよのき<sup>③</sup>た<sup>③</sup>ら<sup>③</sup>そ<sup>③</sup>ら<sup>③</sup>よ  
○あまのぼり<sup>③</sup>あまのぼり<sup>③</sup>  
あまのぼり<sup>③</sup>あまのぼり<sup>③</sup>  
○あまのぼり<sup>③</sup>あまのぼり<sup>③</sup>  
あまのぼり<sup>③</sup>あまのぼり<sup>③</sup>

八十八卷









○おふれまはやくんまのちんま  
 まけてまはやくのぬりま  
 ○たかまのちんま  
 まはやくまはやく  
 ○あまぬりまはやく  
 てうせれまはやく  
 ○ゆてまはやく  
 まはやく  
 ○かまはやく

○うらまはやく  
 まはやく  
 ○みまはやく  
 まはやく  
 ○うらまはやく  
 まはやく  
 ○うれまはやく  
 まはやく  
 ○あまぬりまはやく  
 まはやく  
 ○うらまはやく  
 まはやく  
 ○あまぬりまはやく  
 まはやく









○むくひのうきしむせむふたはたは  
 まあつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ○ひかあつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ひかあつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ○あつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ひかあつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ○あつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ひかあつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ○あつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ひかあつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ○あつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ひかあつたはひん<sup>③</sup>とす

○あつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ひかあつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ○あつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ひかあつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ○あつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ひかあつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ○あつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ひかあつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ○あつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ひかあつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ○あつたはひん<sup>③</sup>とす  
 ひかあつたはひん<sup>③</sup>とす

念





をすげたまへんやろし佛よ

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛

十念

くわうめうぶつ

△第七

光明攝取

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛

○ひうりたまひてくせとるえ  
まげて神んがらちのちやうとだ  
○どうんたるごまてはらて

○いんちんてんてんてんてんてん  
○さかたてんてんてんてんてん  
○はひんてんてんてんてんてん  
○いんちんてんてんてんてんてん  
○みんちんてんてんてんてんてん  
○かじんてんてんてんてんてん  
○まじんてんてんてんてんてん  
○さじんてんてんてんてんてん  
○らんてんてんてんてんてん



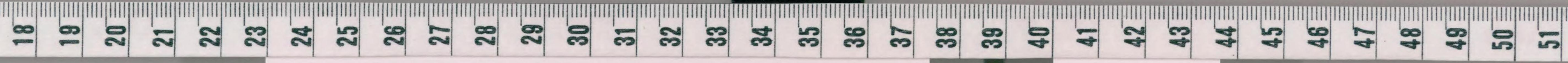




光明攝取之圖



念佛永言









○あつたて秘んあつたあつたせ  
 ぎうごよまじんあおいごら  
 ○うも神あつたをたしんれだ  
 それもねまはまかやあま  
 ○波名よ秘あつたをまのふせま  
 うれたまさかしてひうう海を  
 ○うもねうくう<sup>③</sup>えちあつて  
 こくみれみ<sup>③</sup>う<sup>③</sup>まちあつた  
 あつたあつたあつたあつたのよ

あつたあつたあつたあつたのよ  
 ○うもねうくう<sup>③</sup>えちあつて  
 こくみれみ<sup>③</sup>う<sup>③</sup>まちあつた  
 あつたあつたあつたあつたのよ  
 ○あつたあつたあつたあつたのよ  
 あつたあつたあつたあつたのよ  
 ○あつたあつたあつたあつたのよ  
 あつたあつたあつたあつたのよ  
 ○あつたあつたあつたあつたのよ  
 あつたあつたあつたあつたのよ







百寶池集會



念佛生蓮之圖

娑婆念佛進退二機





○かまひて秘んふつとくしんぞ  
 まもてしんれとま秘んするよ  
 ○うせお乃うてまひまもも  
 むんあるひとまひすれどよ  
 ○ひちかりあちちごりとも  
 ひひもちすとおむあべしよ  
 まもけたまへもあまひん

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

十念

△第九 至心發願

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

○さてもく聲やあむきよたよ  
 かくるん乃うりあまひんよ  
 ○ろくたう志やうとまあなりよ  
 かうひんげんとまひんよ  
 ○こてしんれやあまひんよ  
 かういんまよあひあつてよ





○こころをいふまゝにわしためで  
 だにすゝきやうにわしためで  
 ○こころをあやうしむらんやわ  
 おんをいふれあ③まゝにあり  
 ○こころをいふまゝにわしためで  
 いふまゝにわしためで  
 ○こころをいふまゝにわしためで  
 いんげんのほ③ろろろろろろろ  
 ○うけもろろろろろろろろろ

らゝろろろろろろろろろろろ  
 ○ろろろろろろろろろろろろろ  
 らゝろろろろろろろろろろろ  
 ○かゝるすすたるもわくそく  
 だごもてし③ひわわわわわわ  
 ○あつてもいふまゝにわしためで  
 あつてもいふまゝにわしためで  
 ○こころをいふまゝにわしためで  
 ぬくまをいふまゝにわしためで



西<sup>さい</sup>觀<sup>くわん</sup>六<sup>ろく</sup>微<sup>ゐ</sup>三<sup>さん</sup>珍<sup>しん</sup>勢<sup>せい</sup>念<sup>ねん</sup>人<sup>にん</sup>  
 方<sup>ほう</sup>音<sup>おん</sup>方<sup>ほう</sup>塵<sup>ちん</sup>國<sup>こく</sup>陀<sup>た</sup>至<sup>し</sup>佛<sup>ぶつ</sup>  
 願<sup>げん</sup>勢<sup>せい</sup>證<sup>じょう</sup>刹<sup>せつ</sup>傳<sup>でん</sup>化<sup>け</sup>權<sup>けん</sup>相<sup>さう</sup>有<sup>ゆう</sup>  
 主<sup>しゆ</sup>至<sup>し</sup>誠<sup>じやう</sup>土<sup>ど</sup>燈<sup>とう</sup>身<sup>しん</sup>迹<sup>じやく</sup>兼<sup>けん</sup>緣<sup>えん</sup>  
 珍<sup>しん</sup>諸<sup>しよ</sup>護<sup>ご</sup>諸<sup>しよ</sup>自<sup>じ</sup>善<sup>ぜん</sup>圓<sup>えん</sup>諸<sup>しよ</sup>善<sup>ぜん</sup>  
 陀<sup>た</sup>聖<sup>せい</sup>念<sup>ねん</sup>三<sup>さん</sup>他<sup>た</sup>導<sup>だう</sup>光<sup>くわう</sup>上<sup>じやう</sup>知<sup>ち</sup>  
 尊<sup>そん</sup>衆<sup>しゆ</sup>佛<sup>ぶつ</sup>寶<sup>ぼう</sup>祖<sup>そ</sup>公<sup>こう</sup>師<sup>し</sup>人<sup>にん</sup>識<sup>しき</sup>  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

念佛和讃

十五

たゞけたまへん人のあまの佛

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

十念

△第十合掌 至心勸請

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

〇くぐくあまの〇きお妙んあう

〇大恩教主釋迦尊

〇大恩教主釋迦尊











○せんをむくもたすかるも  
 いげあひもあすも  
 ○らくとらげもいさるも  
 うあんむあんさすくも  
 ○あうせまうすぞこわんらん  
 たのこあうすぞあみぶらう  
 たすけたましくやあみぶらう  
 南無阿弥陀佛  
 南無阿弥陀佛

十念

△第十二 合掌

歡喜踊躍

急念佛

南無阿弥陀佛  
 南無阿弥陀佛  
 南無阿弥陀佛  
 ○さてえうけやあみぶらう  
 南無阿弥陀佛  
 南無阿弥陀佛  
 ぶつともほうともあうらみの  
 ○たのむむらうれあうらう  
 くらくちうらうゆこ  
 ○たのむむらうあみぶらう





















南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

阿弥陀佛

阿弥陀

阿弥陀佛

阿弥陀

たすけたまへやあまの御

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀

願以此功德

平等施一

同發菩提心

往生安樂國

至心十念

右十念行じ 念り念を廻向十念相續

してごちん 退散する時又第一の方便

とつたごちん 但し首をとらへおろしおろし

おろしおろし





△第十三

暇乞いそぎ

南無阿弥陀佛ヨ

南無阿弥陀佛ヨ

南無阿弥陀佛ヨ

南無阿弥陀佛ヨ

○いざやこそだち

いもふけあ

ちよるそく

念どくへ

○こよいあはたれとそ

きくそあのうてま

○きもいのちのちあも

あすもいそいそあ

よよよよよよ

南無阿弥陀佛ヨ

南無阿弥陀佛ヨ

たすげたまへやあみぶ

とかくはるそあも

○さむくもいそ

そでとつねてい

○しつかりやう

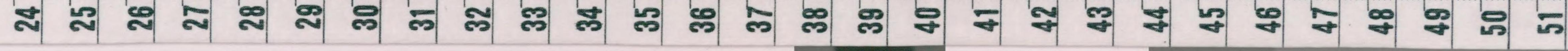
そでとつねてい

よよよよよ

十念

念ちんてう

念ちんてう





いに細川氏信公胸よりみち湯御船よわ  
舞まれく一つの太形を教む舞まれくハ  
来生海を尸にとりてさす遠海お渡と  
かきとて一ヶ年に四度つて春馬  
あしびよ隣家此男也とさそりて此法  
事とさうとさあひ弟代の子孫とそ  
生れぬの苦海とあつ律法と此使系とさ  
らん修業は四方にあらはれ乃有徳  
あしびよ隣家此男也とさそりて此法

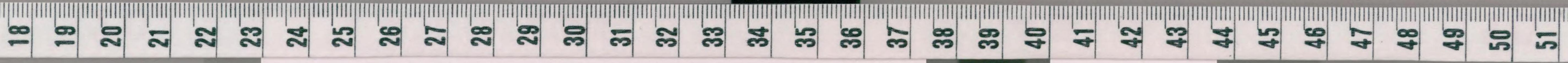
おそむんあを孫け親ゆと退持せと良財  
又田舎を教て氏名失却せん修業と  
三寶法天神祇冥乃常に家内は新向  
法障をとりてひと親和合めて親ゆ  
退持せと良財  
圓通寺二十三世良安上人附法  
迎譽淨運  
臺譽妙蓮  
同妻  
願主敬白

元禄十二巳  
卯天十一月十五日

迎譽淨運  
臺譽妙蓮  
同妻

細川氏

同妻





六分書言  
十一

合あひ祭まつり  
天てん神じん影かげ向むか文ぶん  
地ぢ祇ぎ加か被ひ文ぶん

天てん下げ和わ順じゆん  
日にち月げつ清せい明めい  
兵へい戈ご無む用よう

風かぜ雨あめ以い時とき  
崇そう德とく興きう仁にん

災さい厲れい不ふ起き  
務む修しゆ禮らい讓じやう

○さいといさささよらあひひや

南無阿弥陀佛

天下泰平たいへんや

○國去あんとん民ゆら

さてもめでしやうの福う

ちとまら  
これあはれ

○来もつるもよめえ

六親きんそくをべて

○宿世の善根をいれり

三寶の因果をまじへ

○釈迦ののりにあはれ

海陸のこころをあはれ

○徳力の舟よりのりて

生死の海をわらあり

○大慈のつるにまはる







○南無阿彌陀仏をねよあげて  
 ○法佛獲意のといひせよ  
 ○極楽浄土のまじりつゝ  
 ○梵天といふやうに  
 ○日月徳星もあはれ  
 ○あぢな列のうかんぐも  
 ○百まゝあゑにとりぬいて  
 海よりよろこびあつたあゑ

○あつては海よりあつたあゑ  
 ○あひす大ごくおさうせん  
 ○うがやあはれ神あつたあゑ  
 ○うらな海をまじりあつたあゑ  
 ○地神うらなとく神  
 ○えがやあつたあゑ  
 ○あつたあゑ  
 ○あつたあゑ  
 ○あつたあゑ





〇いまだてまをたはしあつて  
 このまじ生れ死とつらふよ  
 〇あつらうくうちまうし  
 ゆるぎいそいそあしおとる  
 〇あじすたふもゆつとあく  
 ちう後のまへもせんさめく  
 〇さてもあてしつわこれあはく  
 ちうあ万代はあつて

〇徳佛をも常に影向  
 徳と長神守護すれむ  
 〇横病横死のあん見れく  
 悪鬼わく神にげされむ  
 〇福徳さいま井いりみちて  
 ころよかへるころも  
 〇あがて因果とあんすれむ  
 〇あがて因果とあんすれむ  
 〇あがて因果とあんすれむ  
 〇あがて因果とあんすれむ









○ 多劫を現前の一念  
 ○ 三千年十号唯一心  
 人情も厚くして自他と  
 ○ 志ざらざるもすむ境  
 かんげんどうりの人形  
 ○ うらんもうちともへて  
 仏と成生れおまひ  
 ○ 南無阿彌陀仏の聲  
 らうらうらうらうらうら  
 た

珍重

夫婦中能  
 衆人愛敬  
 息災延命  
 信心不退  
 臨終正念

六親和合  
 福德自在  
 子孫繁昌  
 念佛相續  
 決定往生

南無阿彌陀佛  
 謹上再拜

十念

南無阿彌陀佛  
 敬白



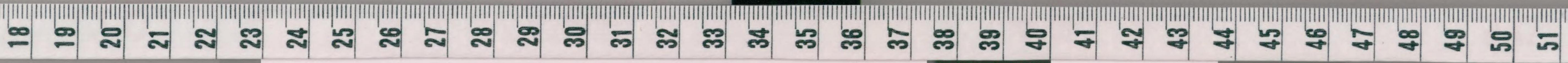


支那光國を結縁のちりめにおおめ  
利物れと有り。今すて又累世れをあらん  
深敷つて大忠大徳の尊貴と修も  
之は同公れ本意よかあし。本體ちやあの  
邪意とよ後こころも。もろとも後後  
再おすべし

音頭人の神樂を教とありして。お又誠  
通し。孝主の親あつびは同約を至心  
報謝し。伏て守護と乞きるべし

音頭して十方を礼念し。後で海無と  
報謝し。伏て守護と乞きるべし

此のまろ定則とすべし。機を足付  
とす。方便とす。又わる  
とす。あはとす。お  
男女れころ我徳行とすべし





△ 牧起請和讃

南無阿弥陀佛

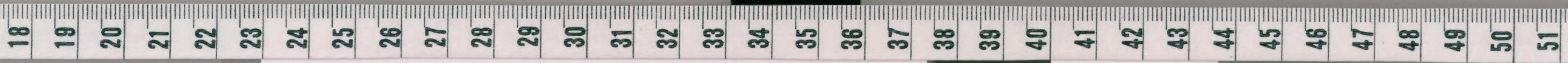
南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛

○ 妙法蓮華經の御んがうの  
 上世末代の御んがうの  
 ○ 多けて来法万代乃  
 極熱病生とわんとせり  
 ○ きん熱せらば折うらま  
 法蓮華いろく此音守と

○ 標至美隆ハこの御乃  
 御んがうの御んがうの  
 ○ 仏心正意乃安んを  
 御んがうの御んがうの  
 ○ 弘くおろくこはまきし  
 御んがうの御んがうの  
 ○ うわ乃を御んがうの  
 御んがうの御んがうの  
 ○ かの御んがうの御んがうの  
 御んがうの御んがうの









清きよの意いををててささししむむととして  
 ひひろろののつつととももひひままむむすすむむびび  
 つつ牧まき起おこすす法ほうととああららううして  
 来ま世よのの邪よこ義ぎととああせせぐぐららるるて  
 ここええううべべんんととそそたたううととななれ  
 ○その福ふくんんぶぶつつののおおんんぎぎんんハ  
 善ぜん念ねんとと推おし和わののつつららももれれく  
 ○そそろろとと和わ約やくのの智ち者しゃののささだだすするる  
 親おんのの福ふくんんああららむむとと

○学がく文ぶんははげげむむののここううつつええんんええ  
 ここううととそそううちちりりととももななまま  
 ○たたげげとと心こころののいいははららみみととハ  
 よよししくくとといいははらられれどど  
 ○そのああららるる人ひとののこころろああららむむて  
 ここららららたたきき何なにととああららむむははららむむ  
 ○念ねん仏ぶつののああららるる人ひとととたたげげ  
 ははををここららむむひひままととああららむむて  
 ○ああららむむひひままととああららむむてて



自然のこともあらざるありと  
 〇 つけとまじきんとは廻向の  
 二つの病此の病ある人の  
 〇 ありあるありをわえんと  
 ありありのありありあり  
 〇 まる智者を此のありまいと  
 せずして福のありありあり  
 〇 いちげとげとらるるあれど  
 宗匠といふれたいやす

〇 たゞ智者あざむく愚者あざむく  
 〇 智のくくくくくくくくくく  
 〇 ぬれぬれぬれぬれぬれぬれ  
 〇 入り入り入り入り入り入り  
 〇 いらぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 〇 人をきききききききききき  
 〇 及る及る及る及る及る及る  
 〇 徳徳徳徳徳徳徳徳徳徳  
 〇 一のゆるゆるゆるゆるゆるゆる



あうまのころまのあまきぞとて  
 ○二世<sup>ニ</sup>ま<sup>マ</sup>でうけてちうりや  
 えん<sup>ん</sup>のきひの<sup>ひ</sup>りあこま  
 たすけたまうやあみざく併

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛

十念

△和讃講會法船之序  
わさんくう ぎふせん のぎふ

南無阿弥陀佛

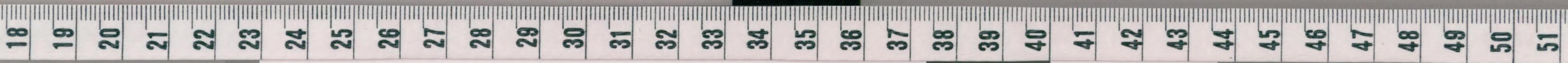
南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛

○そし<sup>く</sup>海念<sup>ん</sup>の<sup>ん</sup>あ<sup>ん</sup>ゆ<sup>い</sup>  
 あをい<sup>て</sup>き<sup>と</sup>ら<sup>う</sup>の<sup>ん</sup>ま<sup>ま</sup>  
 ○あま<sup>てる</sup>邪<sup>の</sup>の<sup>ん</sup>あ<sup>ん</sup>あ<sup>ま</sup>れ  
 ひ<sup>が</sup>と<sup>と</sup>を<sup>を</sup>大<sup>ら</sup>ん<sup>の</sup>  
 ○才<sup>め</sup>乃<sup>代</sup>の<sup>る</sup>い<sup>す</sup>く  
 あ<sup>ま</sup>の<sup>り</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>え  
 ○二<sup>せ</sup>れ<sup>け</sup>ら<sup>く</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>  
 二<sup>せ</sup>い<sup>ぢ</sup>の<sup>み</sup>あ<sup>ん</sup>  
 ○あ<sup>ま</sup>の<sup>り</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>え

よよよよよよよよよよ









〇 げよかあつる乃うあまきだ  
 〇 まけく弘通のおんさぶ  
 宗徒守陣の位とあげて  
 〇 圖光大師とさうりあ  
 大僧正（三）にんざう家  
 〇 うきほ傍心おんちひの  
 むひれくみのおうまはて  
 〇 存よあづうし（三）きん（三）の  
 海念（三）れ乃うと（三）ひらちんと

〇 心（三）密（三）をうけ  
 〇 月（三）念（三）とさうりあ  
 〇 衆（三）のげちあんと  
 〇 まうまき（三）ひの（三）さあり  
 〇 とさうあ（三）ち福（三）ありの  
 〇 念（三）のさ（三）傳（三）あれ  
 〇 みや（三）い（三）あ（三）ま（三）あ（三）で  
 〇 〆（三）の（三）あ（三）さ（三）  
 〇 〆（三）の（三）〆（三）







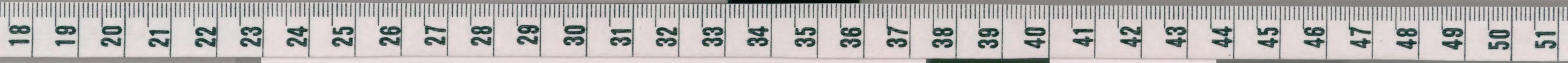
たづいよ利をとかのひん  
 のきこはけよまをりて  
 とく  
 ○取病はるを  
 法界をとうろほさん  
 たすけたまふわみぶつ

南無阿弥陀佛

南無阿弥陀佛

十念

此傳會乃和徳之十九無執念仏の傳を  
 わためて百万遍の傳式とまじわ  
 念仏の傳をとりて一蓮俱念の  
 因縁をむすぬまをり入乃信人善  
 教風を村林を寺のまよあま百人  
 七井村西法寺に悟入者あ八百餘人  
 村銀音院の傳を入者あ千餘あり  
 鎌倉より悟席をつ務めてを修  
 ありしん事ありて務するまよあは



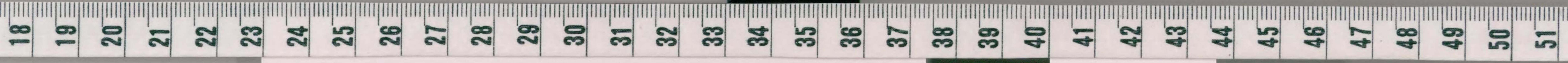


心念とつづらわつるものあり。まじりて  
 名懸流大澤園通寺に隣村あるが如  
 へ。法意むあつる事とあり。つを  
 海どつよか。あのみまゝあり。そし横  
 縁費せる里くよ。法和傍流ひきけ  
 式をまあびしあへし

元禄十三 庚辰二月十四日

跋

夫徳くすく。加祐法師ハ月利とありして  
 利他の慈悲易を事とせ。法華教名利と  
 いふて。殊勝の乃おを現する事ありし。  
 身とまに。縁をつ所よえり。心を  
 ありし。人徳よか。まじり。結るに  
 去る秋の法よ。まじり。端の興。興と開て  
 百七十角の初縁と縁。









ことばをきく。誰のへり。是と修。
 蘇。沙。陀。刹。の。名。号。と。法。師。の。徳。統。
 法。師。の。徳。統。の。名。号。と。法。師。の。徳。統。
 け。和。僧。の。徳。統。の。名。号。と。法。師。の。徳。統。
 法。師。の。徳。統。の。名。号。と。法。師。の。徳。統。
 則。と。子。ん。で。齊。の。徳。統。の。名。号。と。法。師。の。徳。統。
 行。を。和。僧。の。徳。統。の。名。号。と。法。師。の。徳。統。
 和。と。だ。ら。る。う。ふ。此。方。便。を。と。時。と。横。

かの。あ。て。感。應。あ。厚。に。し。し。
 徳。統。の。徳。統。の。名。号。と。法。師。の。徳。統。
 行。を。和。僧。の。徳。統。の。名。号。と。法。師。の。徳。統。
 則。と。子。ん。で。齊。の。徳。統。の。名。号。と。法。師。の。徳。統。
 行。を。和。僧。の。徳。統。の。名。号。と。法。師。の。徳。統。
 和。と。だ。ら。る。う。ふ。此。方。便。を。と。時。と。横。









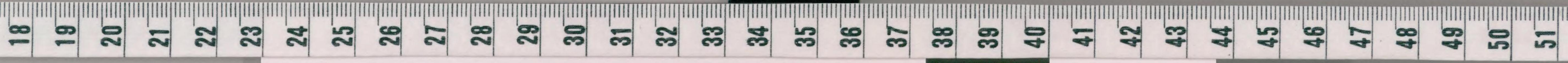
縁よあまらず。さうざーと愛しやして。功を  
ほ北人よよす。若くはさうざーして。功を  
弔ぐ。意願の功をみてぞ。も人よあまらず。乃  
あまらず。廣くさうざー佛の化儀と  
たす。あまらず。さうざーのたす。あまらず。さうざー  
さうざー罪板を。初縁の縁儀とたす。初縁ハ  
意願の縁をす。も。意願を。乃縁  
後をす。も。意願を。乃縁  
うあまらず。さうざー。此れ。さうざー。

十三 幼むね 庚辰の象林浄下旬

ガラー せんせう せんせう  
佛子寛照讃誌

武江 增上寺表門前

林十郎共衛彫刻





附録

心行自然和讃念佛流傳記

周雲洒潤則芬澤易流  
飛風載響則音徽自遠  
是以德教俟物而濟  
榮名緣時而顯  
粵有加祐和尚者  
野下刈芳賀郡之人也  
受法於良安同嘉大澤山円通寺一十二二世  
上人矣息解秀乎離塵高窺佛智  
相負交乎埃霧鄙類頑魯踞則疑  
猿狗走則怪麒麟如雲不定住如  
水追窪流會門人之景慕逃而不  
應見稚童之笑詈共而追戲清貧  
轉衆孤獨自安伽梨許多不全盃  
多水瓶無具蔓榻不飾艸衣無樞  
節操異於世誰能窺

